



10月30日、県の重要無形民俗文化財に指定されているお法使祭りが開催されました。この祭りは菊陽町と益城町、西原村の12地区が1年ごとに持ち回り、当番の地区は「お仮屋」を建てて1年間ご神体を安置し、翌年には次の地区にご神体を受け渡し、600年以上の伝統がある行事です。

今年は西原村の門出・田中・星田地区から、菊陽町の戸次地区へとご神体に乗せた神輿が受け渡されました。

この祭りは、世代によって笛や太鼓、楽、踊り、担ぎ手と役割が変わります。12年に1度のお祭りに向けて、各地域が一体となってそれぞれの役割を次世代に継承します。

お法使祭り

- 1 お仮屋に安置されたお法使様
- 2 お法師様の周りで輪になって踊りを踊る
- 3 ご神体に二礼二拍手をする
- 4 演奏しながらご神体の周りを回る
- 5 今回参加した踊り手の皆さん
- 6 神輿の壊れた箇所をチェックする
- 7 受け渡しの神事の様子
- 8 神輿をお仮屋に運び入れる
- 9 神輿を豪快に転がす
(前回の戸次地区の様子)



第49回 菊陽町文化祭

第49回菊陽町文化祭が、11月3日に町図書館ホールで開催されました。オープニングでは菊陽武蔵剣豪太鼓による演舞が披露され、大迫力の和太鼓の音と掛け声が会場に響き渡りました。菊陽中学校の吹奏楽部と合唱部による演奏では、きれいな音色が会場内を満たし、観客を盛り上げました。菊陽町PR大使である馬場楠の獅子舞は、ステージを飛び出し、客席の目の前で力強い舞を披露し、観客を圧倒しました。

午後の部は熊本菊陽学園太鼓サークルによる演舞を皮切りに、琴や三味線、マジックショーなど多様な演出で来場者を楽しませました。また、武蔵ヶ丘中学校の吹奏楽部の演奏やギタークラブによるギター演奏、フラダンスなどが会場を魅了しました。

文化祭関連行事として、10月26日に歌謡祭、11月1日に舞踊祭、11月7～9日に展示会が開催されました。展示会では、町文化協会の会員のほか、武蔵ヶ丘中学校美術部や町内で開催している各講座の生徒による作品も展示され、会場を彩りました。

また、展示会では今年度より、ワークショップが開催され、文化協会員のレクチャーの下、来場者が粘土細工や花てまり、さをり織りなどを体験しました。